

フットボール de コミュニティ

大阪経済大学 田島ゼミナール B チーム

○梅本 晃生 大橋 尚樹 木戸 俊博 津野 浩平

野田 有沙 平井 寛之 松本 彩那

1. スポーツとまちづくり

スポーツを通じたまちづくりは、これまでに多くの取り組みがある。「スポーツを活かした地方創生に向けたスポーツ庁の取組」(スポーツ庁, 2016)によると、合宿、キャンプの招致「ラグビー合宿の誘致で地域活性化(北海道網走市)」、地域でのスポーツ大会の開催「スポーツイベント世界遺産の地・熊野がマリンスポーツ開発に挑戦(三重県熊野市)」、スポーツツーリズム「サイクリストの聖地 しまなみ海道(尾道市、今治市)」等、多くの事例が提示されている。

佐伯(2000)は、スポーツによるまちづくりについて、「地域形成のビジョンに基づいた地域課題を踏まえて、その解決に向けたイノベーション装置としてスポーツイベントを構成する」という視点が必要であると述べている。

そこで、大阪府東大阪市を「対象地域」に企画提案を行う私たちの企画では、スポーツの現場や東大阪市の抱える課題を把握したうえで、それらを解決できる「フットボールタウン構想 フットボール de コミュニティ」を考案した。

2. 課題の把握

課題(1) 子供のスポーツ人口・体力低下

笹川スポーツ財団の調査(子どものスポーツライフ・データ 2015)によると4~9歳の運動・スポーツ実施状況は「週7回以上」の実施者が49.8%で半数がアクティブ・チャイルドであるが、アクティブではない子どもが半数、不活発なインアクティブな子どもが2割も存在する。

また、最近は下げ止まりの傾向がみられるが、1985年の水準と比べるとソフトボール投げの項目において、特に子どもの体力は低下傾向にある。(体力・運動能力調査、文部科学省)東大阪市においても、外遊びの機会や仲間が減少していると同時に、これまで外遊びの場であった公園や空き地が少なくなり、自由に安全に遊ぶ場もなくなっている現状にある。

課題(2) 障害者スポーツ現状

スポーツ基本法では「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利である」と記載があり、障害を持った人にもそれは同様の権利であると考えられる。しかし、障害者(成人)のスポーツ実施状況は、「週1~2日」9.9%、「週3日以

上」9.3%、「行っていない」60.2%（笹川スポーツ財団、2015）であり、成人全体のスポーツ実施状況と比べて極端に低い。東大阪市においても、障害者スポーツに関する施設はなく、関連する施策も決して多いとは言えず、障害者を含めた誰もがスポーツに参加できる環境づくりに取り組む必要性がある。

課題(3) 東大阪の産業

東大阪市は、全国有数の中小企業の多い町である。平成24年には約6,000の工場があり、「何でもつくれる東大阪」「何でもそろふ東大阪」として国内外から高い評価を得ていた。しかし、近年は受注減による工場数の減少が顕著であり、平成26年度の調査（東大阪市工業統計調査結果）では、前年比114の工場が少なくなっていることが示されている。

以上3つの課題を「フットボールタウン構想」で解決したいと考えている。

3. 企画提案

企画(1) はだしでスポーツができる～LAWN SMILE プロジェクト～

ア)芝生化のメリット・デメリット

表1:芝生化のメリットとデメリット

メリット	デメリット
転んでも怪我が少ない	資金が多額
裸足で遊べる	維持管理が大変
スポーツの幅が広がる	冬は景観が悪い
冬でも湿度が保たれる	
猛暑日のヒートアイランド現象の緩和	
水たまりができにくい	
土埃がない	

イ)芝生化の取り組み計画

目標；「今後5年間で、東大阪市の幼稚園と保育園の80%を芝生化します！」

a)方式 ポット苗方式

ポット苗方式の方法とは、ポットの中で芝生を約1ヶ月育てる。その後土の中で芝生を育て、植え付け3ヶ月後には芝生の完成。

b)ポット苗方式の魅力

芝生の成長が早い、手入れが簡単、簡単な植え付け、肥料

c)タイムスケジュール

2～3月 芝生化を進めるための保護者等説明会

4～5月 園庭の整備（石などを取り除く）

6月 苗植会イベント

⇒ その後は毎日の水やりと、2週間に1回の肥料散布で4か月後には見事な芝生化が実現

ウ) 芝生化後の活用施策

芝生化された各幼稚園や保育園での「サッカー教室」、各幼稚園や保育園の保護者向けに「芝生 de ヨガ教室」、子どもたちがスポーツだけでなく絵本や紙芝居の楽しさも学ぶことができる「芝生 books」、この3つのイベントを定期的 to 実施することにより芝生化された各施設での幅広い活用が可能となる。

企画(2) 障害があってもなくても「誰でもサッカー大会」

ア) 対象

○ブラインドサッカー ⇒ 視覚障害のある人が行う 5 人制サッカー

視覚障害の有無関係なく、全参加者がアイマスクをして行うこと。

○アンプティサッカー⇒上肢、下肢に切断障害のある人が行う 7 人制サッカー

切断障害の有無関係なく、全参加者が片手片足で行うこと。

○デフサッカー ⇒ 聴覚障害のある人が行う 11 人制サッカー

聴覚障害の有無関係なく、健常者も耳栓をして行うこと。

※以上の障害を持つ人が、日常的にサッカーを楽しむ場（大会）を開催する！

イ) 大会概要

会場：東大阪市花園ラグビー場

開催頻度：年 2 回(春季 5 月、秋季 10 月)

ウ) 大会運営計画

「誰でもサッカー大会」開催実現に向けて 2 つの課題がある。

a) 運営スタッフ

→ 大会運営スタッフ(審判、応援団、清掃、警備など)は、東大阪の学生(サークルなど)や市民の人たちに募集をし、ボランティア運営として協力し合う。

b) 大会運営資金の確保

→ 会場となる東大阪市花園ラグビー場の施設費や用具費などを考慮すると、1 時間使用するだけで約 250,000 円が必要である。そこで、クラウドファンディングを活用して資金面をサポート。



図 1：クラウドファンディング（出典 <https://a-port.asahi.com/guide>）

企画(3) 東大阪サッカーミュージアム(AR 版サッカーミュージアム)

ア)ねらい

- ・東大阪市でラグビーだけでなく、サッカーも身近に感じてもらう
- ・サッカーの魅力を目でみて知ってもらう
- ・ARを利用することにより、今までにないサッカーミュージアムとなる。

イ)AR版サッカーミュージアムの仕組み

ARとは、実在する風景にバーチャルの視覚情報を重ねて表示することで、目の前の世界を「仮想的に拡張するもの」である。

大阪市に本社を持ち、AR開発を行っている株式会社サン・エンジニアリング（大阪アプリ開発.com 事業部）に協力申請し東大阪市と提携して事業を展開する。

AR化するもの：大阪出身のサッカー選手、Jリーグのユニフォーム・スパイク・ボール、日本サッカーの歴史上の名場面写真や動画、日本サッカー資料集、ARで楽しむサッカーゲーム（PKゲーム）

*現代では必要不可欠となり身近に存在しているスマートフォン。このAR化の展示方法を活用することで次第にサッカーも身近に感じてもらい、サッカーの魅力を目でみて知ることができる。

3. まとめ

○「LAWN SMILE プロジェクト」

地域のコミュニティの場となり、幼少期から良い環境でフットボールと触れ合うことが成長につながるキッカケとなる。

○「誰でもサッカー大会」

東大阪にサッカーのイベントを作ることにより、地域一体がフットボールに関心を持てるのではないかと。地域コミュニティの形成（国際的コミュニティも含む）。また、誰もが東大阪をフットボールで支えることができる。そしてなにより、サッカーを通じて誰もが“HAPPY”になってもらいたい。

○「東大阪サッカーミュージアム（AR版サッカーミュージアム）」

市民の人々にフットボールが身近な存在へとなっていくこと。またサッカーの魅力を学ぶキッカケとなる。

<参考文献>

佐伯聰夫、スポーツイベントの展開と地域社会形成、不昧堂出版 2000

スポーツ白書 2017

スポーツライフ・データ 2016